



企業対抗ライジングレディースカップ



参加企業の皆様へ

この大会を通じて知っていただきたいこと

■研修生を採用するゴルフ場が減少し、練習環境に変化

2022年度JLPGAプロテスト。700名に及ぶ予選参加者のうち、最終テストに挑んだのは112名。とてつもない緊張感、プレッシャーのなか、過酷で厳しい4日間を戦い抜いた上位成績20名が合格を勝ち取り、晴れてプロゴルファーの道を歩み始めました。合格率は実に4%以下。難関といわれる国家資格よりも狭き門が女子ゴルフのプロテストだといわれています。

そのような中、多くの選手たちにとって、プロテストを『受験すること自体が厳しい状況にある』ということをご存じでしょうか。

血のにじむような練習を重ねながら、自らの手でプロテスト合格までの費用を稼ぎ出すのは並大抵なことではありません。

かつては研修生としてゴルフ場に勤務し、キャディーなどの仕事をこなしたうえでラウンドや打球練習を積むというのが一般的でした。ところが現在のゴルフ場の状況は、慢性的なキャディー不足の流れを鑑みた結果、GPSカーナビを導入することでセルフプレーを推進、そしてキャディーの雇用を減らす傾向にあります。積極的に研修生を採用するゴルフ場自体が減っているのが事実なのです。

研修生を経てプロテストに・・・というルートが狭まったことで、プロテスト受験にも大きな変化が生まれています。

■プロテスト受験にのしかかる、大きな問題

「プロテストを受験するには予選から最終まで、遠征費用やエントリーフィー、さらに事前練習ラウンドのプレーフィーなどを含めると、多額な費用が必要です。これ以上親に負担は掛けられませんので、テスト費用はアルバイトをしながら捻出しています」と合格を目指す選手のひとり言は言います。

費用の捻出は彼女たちに立ちほだかる大きな問題です。テスト受験を迎えるまでには、練習ボールの球数は連日300球に及び、コース勘を養うためにはラウンドフィーも必要。小さな試合だとしても出場するにはエントリーフィーも必要ですし、全国各地を転戦する宿泊費や交通費は高額です。

さらにトレーニングのためのジム費用、コーチ費用など、列挙すれば枚挙にいとまがな

いほどです。

プロテスト受験者は、誰しも幼少の頃からの夢であるツアープレーヤーを目指し、自ら生計を立て、1年にわたり厳しい生活を続けています。

■ティーチングプロ取得にも多大な経費が

テスト受験者のなかには、ゴルフの魅力を伝え、レベルアップに導くレッスンに価値を見出し、ツアープレーヤーからティーチングプロフェッショナル資格の取得に切り替えるケースも少なくありません。

ただ、A級の資格を取得するには3年もの時間が必要で、その間に講習会受講や実技審査を受け、筆記試験だけでなく、実技試験もクリアしなければ資格は得られません。そこにたどりつくまでには、プロテスト合格を目指す選手と同等の努力が必要となり、費用についても200万円以上が必要といわれています。

■夢への挑戦に向けて、必死に努力する彼女たちの姿を知っていただき、一助になる取り組みとして「企業対抗ライジングレディースカップ」を企画しました。

JLPGA ツアーという華やかな舞台で輝ける選手はほんのひと握り。ツアーを目指す大半の選手は厳しい現状を強いられています。若手の活躍が目覚ましいツアー競技において、プロテスト合格はますます狭き門となっており、夢を追う選手たちにとって、その厳しさは増すばかり。実力を持ちながらも、費用を捻出できないがために、プロテストを断念してしまう選手もいます。

プロテスト合格を実現するには、ゴルフの実力だけでなく、厳しい現状を打破する環境も必要だということなのです。

現状を打破するのは決して簡単なものではありません。ただ、その第一歩として人的資本が必要不可欠だと私たちは考えています。華やかに見えても、常に不安を抱え、なおかつ自身のパフォーマンスを高めるには、彼女たちの人生そのものに寄り添っていただける人的資本こそ重要であり、それが夢の実現を左右する大きなファクターだと確信しています。

常に不安を抱え、プロテストという高い壁に立ち向かう彼女たちにとって、周囲からの応援があるからこそ、頑張れるという場面は決して少なくありません。

今後の彼女たちの人生にエールをお送りいただき、成功へと導いていただければ幸いです。

「企業対抗ライジングレディースカップ」においては、参加企業の皆様へ選手へのスポンサードをお願いすることはございません。

プロゴルファー・ティーチングプロを目指す選手達（ライジングレディース）の実情をご理解いただいた上で、彼女達との親睦を深めながら楽しんでラウンドいただきたく思っております。